

○ 総合的な学習の時間において育てたい力の視点が例示されたが、その理由は何か。また、具体的にはどのような内容か。

平成20年1月の中央教育審議会の答申において、次のような総合的な学習の時間の課題が挙げられている。

- ・ 当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況や学校種間の取組の重複も見られることなどから総合的な学習の時間のねらいを明確化するとともに、子どもたちに育てたい力（身に付けさせたい力）や学習活動の示し方について検討する必要がある。  
(平成20年1月の中央教育審議会の答申から)

このような課題を受け、総合的な学習の時間においては、各学校において育てようとする資質や能力及び態度を明確に設定し、学習活動の質を高めることから、育てたい力の視点が例示された。ただし、示された視点はあくまでも例示であり、各学校の取組を制限するものではない。各学校で設定した目標を分析し、以下の三つの視点を参考にしながら設定する必要がある。

#### <例示された視点の具体的な内容>

**ア 学習方法に関すること**（児童が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度）

- ・ 問題状況の中から課題を発見し、設定する
- ・ 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる
- ・ 手段を選択し、情報を収集する
- ・ 必要な情報を収集し、分析する
- ・ 問題状況における事実や関係を把握し理解する
- ・ 多様な情報の中にある特徴を見付ける
- ・ 課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える
- ・ 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する
- ・ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする など

**イ 自分自身に関すること**（児童自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度）

- ・ 自らの行為について意思決定する
- ・ 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する
- ・ 自らの生活の在り方を見直し、実践する
- ・ 自己の将来を考え、夢や希望をもつ など

**ウ 他者や社会とのかかわりに関すること**（他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度）

- ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れる
- ・ 他者と協同して課題を解決する
- ・ 身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する
- ・ 課題の解決に向けて地域の活動に参加する など